

粥見住民協議会地域計画

～農と林、故を耕す～

はじめに

日本発の縄文時代草創期の土偶が国道 368 号バイパス工事の遺跡調査時に当地域で発見された。

縄文時代の畦跡からの出土で、女性を象ったかなり小さなものであるが専門家によると五穀豊穡及び子孫繁栄を祈り神様にお供えしたといわれる。

現在当地域の農地は田、畑（ほとんどがお茶栽培の樹園地）の約 220 ha を有してはいる。昭和早期にはそのほとんどが稲作栽培が行われお茶栽培に転用する農家が増えてきた。

また、飯南地域の総面積の 8 割を占める森林から産み出される素材は旧町の財政を長期にわたり潤わせてきて、繁栄期には櫛田川を利用し筏流しでその運搬を行っていたほど活気を呈していた。

つまり、農・林は当地区の社会基盤を支えてきた原点といっても過言ではない。

この、地域計画はこの「農と林、故を耕す」をコンセプトに立案した。



1 粥見住民協議会の概要

粥見住民協議会は（以下「粥見住協」と略す。）平成 22 年 6 月、柳上、柳下、津上、津下、畑井、生辺、赤滝（以上粥見上郷 7 組）、出鹿、仲組、北出、舟戸、大溝（以上下郷 5 組）、上相津、下相津、魚瀬、本郷、波留（以上向粥見 5 組）の計 17 自治会で設立された。

戸数は、飯南地域の各住民協議会の中で最大の 804 戸で（2015. 5 月現在、文書配布戸数参照）ある。

地域の中央を清流榎田川が流れ、国道 166 号と同 368 号が交わる交通の要所である。

基幹産業の第 1 次産業として水稲、お茶の栽培が主で下郷地区には飯南地域最大の約 13ha の圃場（主に水稲）が整備され、銘産松阪茶の樹園も構造改善事業によって整備されている。

旧町所在地として政策活動が展開され、特筆すべきは「若者定住住宅の建築」として 11 戸が整備され多くの「若者」が入居していて、その利用も入退居者がうまく循環して常に満杯である。

また、地域には県立飯南高等学校があり中高一貫教育で飯南中学校との繋がりも順調に展開している。介護施設等も整備され、北出地区には「凜生園」舟戸地区には「さくら橋」柳上地区には「さくらんぼ」波留地区には「夢の元気村」が設立されて、充実した介護福祉活動が行われている。

しかしながら、当地域のような中山間地域では第 1 次産業の低迷による若者の流出が著しく高齢化も進んでいる。地域内で育った子が義務教育終了後は町外の高等学校に通学し大学に進みそのまま都会で暮らす、そういった循環がもう幾年も続いている。田舎で暮らすより便利な都会、高学歴で安定した生活…それがスローガンのように親も言う。まさに、安定した収入が得られる場所がこの地にはない。第 1 次産業で頑張る、といっても収入を得るためには機械設備の投資など基盤の整備と産物を市場に反映させるためのブランド力や「売れる商品の開発」にはかなりの時間を要するのが現実である。

さらに、当会の中で自治会同士をつなぐは一部の地域を除いてほとんどなく、一枚岩を目指してはいるものの単位自治会での活動に限られ、活動をさらに発展させるための障壁となっている。

このような現実への悲観はますます地域衰退を助長するだけで、何をやっても変わらない、といったネガティブな面を現在の粥見住協地域に住む私たちが「悲観またよし」といった気概で精一杯のまちづくりに取り組む必要がある。

したがって、このような状態で地域の活力はどうしたら生み出せるのか、粥見住協ではそのことを念頭に次のようなことにアプローチし、3 区の共通理念で取り組んでいきたい。

2 このままの地域を維持しこれ以上の地域を創るためのコンセプト



粥見住協では、粥見上郷区、粥見下郷区、向粥見区の3つの区がそれぞれ次に掲げる5つのコンセプトに基づき活動を展開し、情報交換や学習の交流を行う事により一体となった地域づくりを行っていく。

①過疎化、高齢化を支える地域の力

若者が流出し、高齢者中心の生活は止めようにも止めることはできない。

そこで、少ない人数でしかも高齢者で地域を支えていくために次のような支援を行う。

イ 自治会の班の組織力の強化

班長の職は持ち回りで、15戸であれば15年に1度この職が回ってくる。しかし近い将来高齢者が増え、独り世帯も増えると班の自治の中心になる人がなくなり班の維持さえ困難な状況になってくる。そこで自治会で班が携わってきた行事や活動に人材を送り込むとともに財政的にも支援していく必要がある。

ロ ふれあいサロンへの参加

自治会単位で毎月行われる「ふれあいサロン」は地域の高齢者が楽しみにしている行事で現状では社会福祉協議会が中心となってこの事業を推進している。しかし、地域とのつながりのない状況が大半を占めているので、できるだけ地域の人が高齢、若年、幼年などの域を超え楽しめる場所とし、高齢者のもっと笑顔あふれる楽しい場としていく。

ハ 「わらない」や「わら草履」などの技術の継承と販売

高齢者が持っている「技」「伝統」「知識」を引出し、この貴重な財産を次の世代へ引き継いでもらうとともに、むろん快諾を得なければならないが、道の駅やガソリンスタンド（粥見住協管内であれば杉坂石油店）、大杉商店、深緑茶房、茶来など店舗で販売してもらい高齢者に些少でもいいので現金収入が生じるようなシステムづくりを確立し高齢者の生きがいも合わせて目指していく。

②原点の大切さを認識し、活かす

当地区はどのように創られてきたのか、そのルーツを知り今一度その原点に立ち返り、振り返ることにより現在を見つめなおす。特に農業は今の粥見、向粥見地区謂わんや日本の国の基礎を築いた重要な生業であり表舞台に立たせる必要がある。何もない地域というが次のような歴史やものを掘り起こすことによって将来の地域にきっと輝きを与えることとなる。

イ 「井尻遺跡」のピーアール（売り込み）



土偶の出土場所の明示と井尻遺跡まつりの規模を拡大し、粥見住協会員が集い楽しむ催しとする。

また、土偶まんじゅうやケーキのコンテストを行い粥見の名物とする

ロ 耕作の継続が無理な土地を活かす

耕作ができなくなった農業者と話し合い、れんげやコスモスを植え一面の花の園を造るか、道路沿いだけでもその試みを行いフラワーロードとする。また、わらびが採れる環境状態をつくりわらび狩りを行う。

また、野菜づくりなどを望んでいる人を募り、一区画 25 m²で貸して耕作不可能な農地を復活させる。農地法の制約もあるが地域が協力し合ってこの具現化に取り組む。

さらに、クラインガルテンのような流れができるよう条件整備を行っていく。



ハ 地区内の遺跡マップづくり

当地区内には大小さまざまな遺跡があり小学生の地理の時間でもこの遺跡でやしりなどを発掘する児童もいて、このマップを作り遺跡のまちを啓発していく。

ニ 山を味わう～山師の教え～素人でできる山仕事

当地区には、山仕事が繁栄していた頃多くの山師がいたが、健在する山師も 80 歳代に達している。そこで、かつてのわが町を支えてきた林業を振り返り、だれでもできる山仕事を彼らに教えてもらい、地域の人々に山への関心をもってもらうことを目的とする。

ホ 伝統食の復活と販売

老人力にすぎりグルメブームに逆行して「お粥」「おじゃ」「山の神寿司」「麦こがし」などの伝統食を販売しヘルシーさや地域食材を売り出すことを目的とする。これにはリバーサイド茶倉の協力が不可欠で、情報発信施設の役割を大いに発揮させる。

ヘ 環境美化への支援

夏の道路清掃等、地域の環境美事業に対し支援していく。

③人が住んで「生」を実感できるまちづくり

過疎化が進み、人口も減り、語らいも少なくなるコミュニティーをこのまま放置していいのか、朽ち果てるのを待っているだけでいいのかどうか、粥見住協独自の切り口でこの現実を見つめなおす。

イ 空き家バンクへのお誘い

市で実施されている空き家バンク制度は、足元の地域住民への浸透が促されているとはいいがたく、もっと関心を高める必要がある。需要はあるが供給が少ないといった状態では進展は望めなく、マン・ツ・マンの情報発信・交換を具現化していく必要がある。

ロ 伝統行事の継承と復活

粥見神社の「てんてん」の継承は地域にとっても数少ない伝統行事として毎春秋に催されているが、天狗、雄・雌獅子、はなかけなどその所作や踊りなどを担ってくれる若者が年々少なくなっているため、有間野住民協議会とも協力しながら住民協議会として支援体制を整えていく。また本郷組自治会の「かんこ踊り」も踊り手が不在で現在では行われておらず、この踊りを知る関係者が存在する間に復活を果たせるよう支援していく。さらに現在では行われなくなった粥見神社の「盆踊り」もお盆の帰省者には非常に待ち望まれているもので復活に向け助走する。

ハ 地震、洪水などへの備え

消防団粥見分団、向粥見分団及び広域消防組合飯南分署員の指導及び地域内の介護施設等の協力を得ながら、山崩れ、川の氾濫、集落の孤立という状況で地域がどのような対応をしていくか、粥見住協独自の災害対策マニュアルを策定、状況に応じた訓練を実施する。

ニ 交通事故に遭わない

交通事故によるけがや死亡は人為的要素が大いに絡んでのものであり、スケアード ストレートを用いた交通安全教室を開催し、恐怖を実感することでそれにつながる危険行為を未然に防ぎ、交通ルールを遵守することの大切さを区単位で実施する。

④地域にあるものを探す

イ 歩いて知るふるさと

粥見住協地域の「原点」を歩き探すことによって思いがけないものや場所が発見されることがあるので、ふるさとのいいところを知ることで郷土、地域への愛着を再認識しさらなる3区一体化を目指す。

ロ 道具、歌、遊びなどの発掘

地域にあった農耕道具や子守唄、農作業や山仕事で歌われた歌、けんぱや陣取り缶けりなどの遊びを文書化、映像化し遺す。

ハ 薬草、食べられる草さがし

化学薬品とう全盛の時代にあつて、古から地域に生える薬草や食べられる草を発掘マップ化するとともに自然の中で採取できる安全性を地域の財産として情報発信する。

⑤喜びの分かち合い

イ 「野上がり」ふたたび

機械化によって廃れたが、過酷な農作業の癒しを隣近所で分かち合ってきた昔があつたが、野上がり饅頭（いばら饅頭）や柏餅、さわ餅などを協同してつくり食し語り合い地域の絆を深める。

ロ 赤ちゃん足型プレゼントと売り込み

現在行っている取り組みを継続しさらに、親戚、縁者に売り込むとともにもう一手間の工夫を研究していく。

ハ 飯南体育祭の開催 全住協で

飯南町民体育祭を復活させ、秋の一日を全会員で楽しむ。これをきっかけに粥見体育協会を設立し、今後の住民健康増進のため活動を行う。

3 活動の館の構築

目的を成就させるためのこのような活動は、従来のように振興局の会議室やコミュニティセンターを借りての「ヤドカリ」活動では何とも心もとなく、気軽にだれもが出入りできる粥見住協の拠点を構築していく。そして粥見住協の活動がこの拠点によって更なる飛躍の場としていきたい。

- ① 想定場所 振興局周辺での立地・・・かつて粥見町の中心地であつた現振興局付近で異業種交流が行われ情報収集を行う事が出来る場所の確保 木造平屋建 1棟 延床面積 200㎡

4 事業計画

～別添参照～

事業計画

事業費:千円

区分	事業(行事)名	事業(行事内容)	事業費	積算内訳
過疎化高齢化を支える地域の力	ふれあいサロン支援事業	自治会単位で開催されているふれあいサロンへ地域住民も参加し交流を図る。	510	17サロン×6回/年×5,000=510,000円
	民具作製及び伝承事業	わらないやわらぞうりの技術の伝承と販売	25	材料費代 1式 10,000円 報賞費15,000円
小計			535	
原点を活かす	井尻遺跡普及啓発事業	土偶モニュメント製作	2,500	近隣アーティストへの製作委託費 2,500千円
		井尻遺跡祭の開催	230	材料費1式100,000円 屋台道具等リース代20,000円 仮設費50,000円 印刷製本費 50,000円 通信運搬費10,000円
		土偶饅頭やケーキコンテストの開催	95	報償費50,000円 広告宣伝 30,000円 使賃料 10,000円 通信運搬費5,000円
	耕作地イメチェン事業	れんげ、コスモス栽培	60	種苗代30,000円 燃料代 10,000円 機械リース代 20,000円
	8坪農地活用事業	公募の市民農園として活用	315	休憩小屋 1棟 20㎡300,000円 広告宣伝費 10,000円 通信運搬費5,000円
	遺跡マップ作製事業	地域の遺跡マップを作製	100	委託費1式 100,000円
	山仕事体験事業	身近な山仕事を体験する	35	報賞費 30,000円(3人) 燃料費 5,000円
	伝統食継承事業	伝統食を販売、地域食材の啓発	60	材料費30,000円、報賞費20,000円 使用料 10,000円
	環境美化支援事業	地域の環境美化作業等への支援	340	17団体×20,000円
小計			3,735	

人が住んで「生」を実感できるまちづくり	空き家バンク推進事業	地域が協力し合って推進する	40	1事案紹介代 2,000円×20件
	伝統行事継承等事業	てんてん、かんこ踊りの継承と盆踊りの復活	100	てんてん及びかんこ踊り継承助成金50,000円、盆踊り開催支援費1式50,000円
	防災訓練等実施事業	山崩れ、川の氾濫、集落の孤立を想定した訓練の実施と災害マニュアルづくり	150	防災訓練費用1式100,000円 印刷製本費5,000円
	交通安全教室実施事業	スケアドストレートを用いた教室	200	委託料 200,000円
小計			490	
地域にあるものを探す	あるもの探し推進事業	歩いて故郷を知る。新発見の可能性もある。	20	印刷製本費 20,000円
	昔の遊び掘り起こし事業	地域の遊び、道具、歌を保存	35	印刷製本費 30,000円 材料費 5,000円
	薬草等マップ事業	薬草や食可能な草を探しマップ化する。	20	印刷製本費 20,000円
小計			75	
喜びを分かち合う	野上がりふれあい事業	茨饅頭や柏餅等を作り味わう	30	材料代 1式 30,000円
	新生児足型プレゼント事業	従来事業の継承	70	材料50,000円、広告宣伝費20,000円
	飯南体育祭開催事業	飯南体育祭の開催	115	材料費50,000円、トロフィー制作費20,000円 保険料5,000円 その他40,000円
小計			215	
活動の館の構築	活動拠点施設整備事業	振興局周辺の利便性のる場所を確保する	15,950	1棟 100㎡ (老朽個所修繕、水回り個所整備、机等備品整備など)15,000,000円 設計委託料 950,000円
小計			15,950	
計			21,000	